

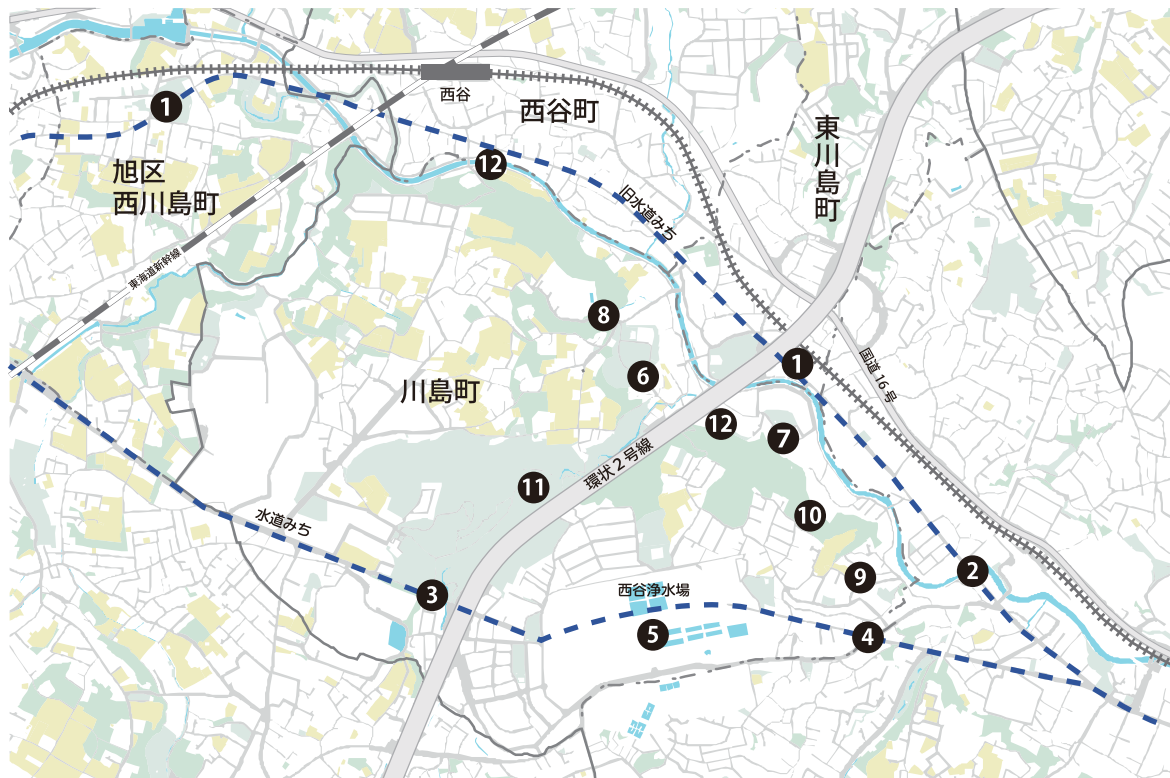
# 近代水道と里山のあるエリア

## 川島町



- 1 横浜水道（水道みち）は横浜の文化遺産
- 2 謎の杉山神社
- 3 曹洞宗 川島山隋流院  
そう とう しゅう ずい りゅう いん
- 4 川島に佇む尼寺！松月庵  
たたり しょう げつ あん
- 5 古くから伝わる郷土芸能～川島囃子～  
ぼやし
- 6 稲荷神社とラベンダー
- 7 保土ヶ谷の秘境～陣ヶ下溪谷公園～  
じん が した けい こく
- 8 絶滅が心配される カザグルマ
- 9 環境にやさしい野菜づくり～露地野菜～  
ろ じ
- 10 小松菜は地産地消の優等生

## 近代水道と里山のあるエリアマップ



### ①水道のみち案内板設置場所

→1 横浜水道(水道みち)は横浜の文化遺産

### ②両郡橋

→1 横浜水道(水道みち)は横浜の文化遺産

### ③みずの坂道

→1 横浜水道(水道みち)は横浜の文化遺産

### ④旧配水計量室

→1 横浜水道(水道みち)は横浜の文化遺産

### ⑤西谷浄水場・水道記念館

→1 横浜水道(水道みち)は横浜の文化遺産

### ⑥杉山神社

→2 謎の杉山神社

### ⑦随流院

→3 曹洞宗 川島山随流院

### ⑧松月庵

→4 川島に佇む尼寺! 松月庵

### ⑨稲荷谷戸

→6 稲荷神社とラベンダー

### ⑩旧茅場

→6 稲荷神社とラベンダー

### ⑪陣ヶ下溪谷公園

→7 保土ヶ谷の秘境〜陣ヶ下溪谷公園〜

### ⑫カザグルマ生息地

→8 絶滅が心配されるカザグルマ

# 横浜水道（水道みち）は横浜の文化遺産

エリアマップ①

## ～横浜水道（水道みち）は日本初の近代水道～

◆保土ヶ谷区と旭区の地図を見ると、八王子街道と帷子川に沿いつ離れつして、「水道みち」がほぼ一直線に左上から右下に横切っています。明治20年(1887年)以来ずっと横浜の中心部(関内地区)に水を送り続けて、横浜市域の拡張と共に給水範囲を広げてきました。この横浜水道は横浜市民の生命線です。

◆幕末に開港した横浜は、埋立地が多く良質の水が得られず、外国人居留者からも、良質の水の確保に強い要望があり、更には明治15年(1882年)、コレラの流行もあり、上水道の導入は長い間の悲願でした。従来の木桶もくび水道を廃し、日本最初の「近代水道」を採用したことは画期的なことでした。

◆神奈川県は英国人技師、H. S. パーマーに、水道施設に関する調査、設計、工事一切を依頼しました。津久井郡三井村の道志川が相模川に合流する地点に取水口を求め、そこから野毛山浄水場にいたる44km余りの導水線路を、僅か2年間で、明治20年9月に完成させました。



水道記念館前のしいの木の並木



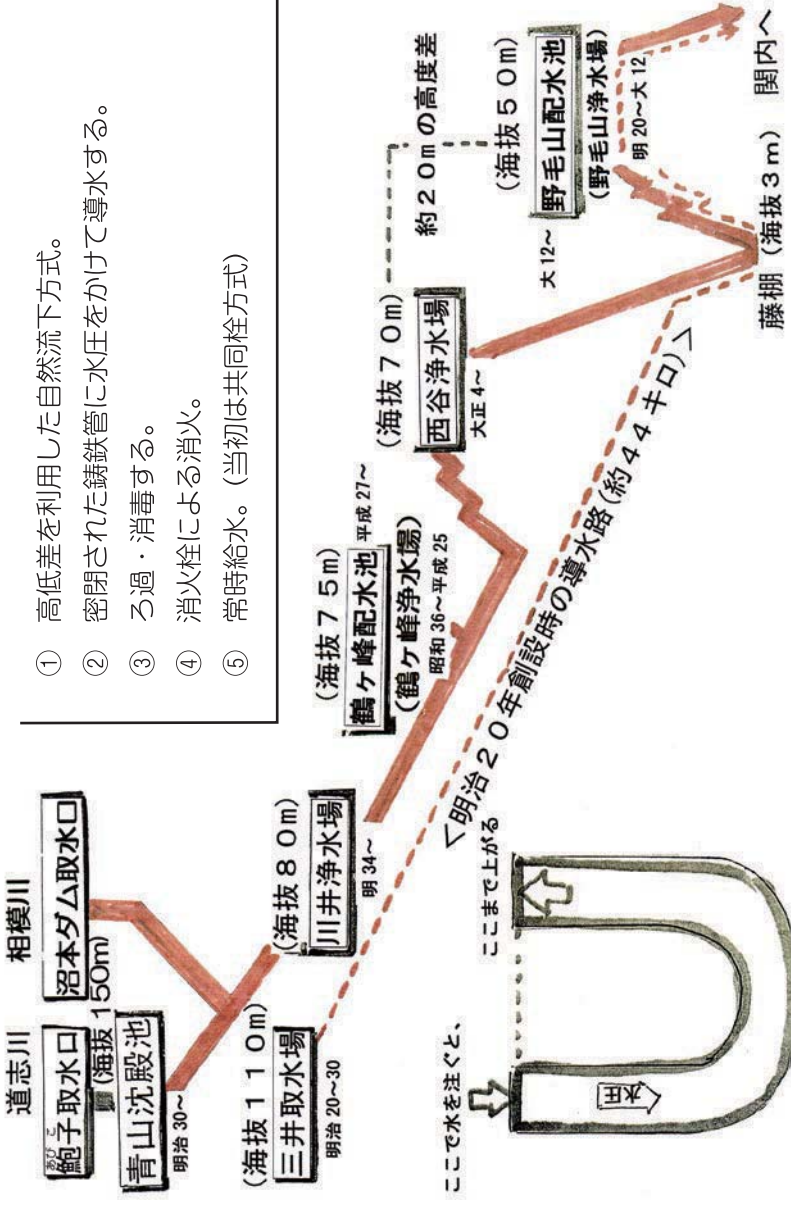
# 1

## 横浜水道（水道みち）は横浜の文化遺産



### ～近代水道の仕組み～

- ① 高低差を利用した自然流下方式。
- ② 密閉された鑄鉄管に水圧をかけて導水する。
- ③ ろ過・消毒する。
- ④ 消火栓による消火。
- ⑤ 常時給水。（当初は共同栓方式）



図解：村田 啓輔さん

# 横浜水道（水道みち）は横浜の文化遺産

エリアマップ②

## 川島村を横断する新旧2本の水道みちを巡る

### （1）明治20年当初の水道みち

昔の帷子川や相模川は狭い山間を曲がりくねり、兩岸の丘陵は起伏があり、地盤も悪かったので、長い距離を導水するために、ちゅうてつかん 鑄鉄管を繋いで地中に埋設する工事は難航を極めました。

英国から輸入した鑄鉄管を船で相模川上流に運び上げたり、水道管を埋設する道路敷にトロッコを敷設して運搬したりした跡が見られます。また、水道管を川に渡すときは道路橋を架けることもあり、その時だけ橋に並行して、地上に水道管が現れます。両郡橋、宮川橋などに見られます。



トロッコ標識→



創設当時のルートにある両郡橋



# 1 横浜水道（水道みち）は横浜の文化遺産

## （2）大正4年、西谷浄水場開設による現在の水道みち

### ①みずの坂道

#### エリアマップ③

相鉄線鶴ヶ峰駅から西谷浄水場へ真直ぐに続く道があります。登り、下りを2回繰り返し浄水場に至ります。陣ヶ下溪谷公園の入り口あたりに、下に水道管を埋めた階段の「みずの坂道」があります。平成2年に「ふるさと坂道30選」に選ばれ「手作り郷土賞」を受賞しました。



### ②旧配水計量室

#### エリアマップ④

西谷浄水場から野毛山配水池への配水量を計る装置がある建物で、国の登録文化財に指定されています。白い大理石と横黒煉瓦を組み合わせたデザインは、大正時代を風靡したものです。



## 西谷浄水場見学記

相鉄線上星川駅から急な長い坂道（水道坂）を上りきったところの広大な敷地に西谷浄水場があります。ランドマークタワーをはじめ、横浜の街が一望できる海拔約70mの高い丘の上に造られたのは、なるべく高いところから自然に流下させる（水道の仕組み）ためです。そのために、大変な難工事だったようです。

それにしても100年も前の大正4年（1915年）に造られた、赤煉瓦と青銅の屋根の「ろ過池整水室上屋」6棟は現在役目を終えています。国の登録文化財として保存されているのにはビックリ！長い間、横浜に水を供給してきた貴重な歴史が十分伝わりました。

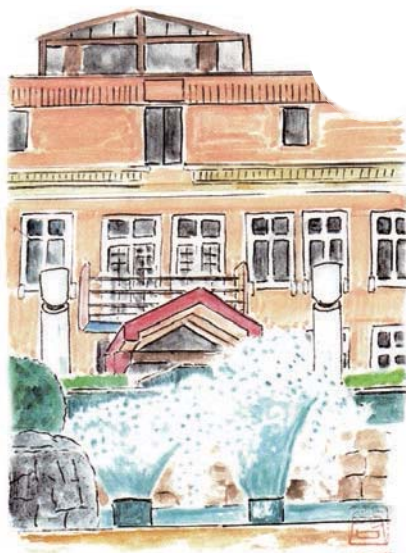
また、水道記念館の敷地内は春の桜並木が素晴らしいです。



西谷浄水場



水道記念館敷地内の桜並木



水道記念館

語りべ：松本 悦子さん・村田 啓輔さん（イラスト含む）



# 1 横浜水道（水道みち）は横浜の文化遺産

エリアマップ⑤

## 水道記念館の見どころ

昭和62年（1987年）、横浜水道創設百周年を記念して、西谷浄水場に隣接したところに横浜水道記念館（水道技術資料館と共に）が開設されました。水道の歴史や技術の移り変わりを展示していますが、ここでは3つの話題を挙げましょう。

### (1) 水道開通の驚きの写真

給水開始の日には関内の吉田橋のほとりで、消火栓を使った放水試験がおこなわれ、筒先から勢いよく吹き上がる水に人々は驚嘆したものです。当時の人は、「4.4kmもの距離を、しかも野毛山を越えて本当に水がくるのか」不思議に思っていたそうです。

### (2) 獅子頭共用栓



開通当時は、関内では約50mごとに設置された共用栓を使用しました。木樋水道の時のように、貯めておいた水を汲んで使うのではなく、各人が栓の口にあるテコを手で動かすと水がほとぼしりました。栓を捻るのではなく、これが巧妙な仕組みで面白いです。

### (3) 英国から贈られた記念の噴水

英国から贈られた3基の噴水のうち、唯一残るものが、庭にある大きなガラスの中に安置されています。当時は横浜駅前広場（現桜木町）に設置されていました。西洋の噴水は上に吹き出すものではなく、滝のように落ちる水の美しさを見せるもののようです。



語りべ：松本 悦子さん・村田 啓輔さん



## 古代日本の殖産移譲の痕跡を見た！

川島の里山に「杉山神社」は威厳をもって鎮座しています。この神社は、区内になんと6社も祀られています。全国的にみても非常に奇異に感じますが、祀られている祭神が異なる事に



驚かされます。かつては市内に72社、現在でも35社が祀られています。如何に地元の崇拝が篤いかが伺えます。

創建時の祭神は「天太玉命」<sup>あまのふとだまのみこと</sup>で有り、忌部氏<sup>いんべ</sup>の遠祖であります。太古の昔、阿波忌部の一族が東国開拓に乗り出し、房総安房<sup>ぼうそう あわ</sup>・茨城<sup>だいじょうさい</sup>一帯を開拓しました。忌部は神武天皇が即位の時、大嘗祭<sup>のりと</sup>の祭司を取り仕切っていた一族です。岩戸開きの祝詞を司る呪術師の役目を負っていた他、織物、造船・海運、植林、土木建設、製鉄・鍛冶等にも秀でていた「スーパー職能集団」でありました。これらの人々が対岸の鶴見川・帷子川・大岡川3流域の開拓に携わり、丘の上の杉山の森に遠祖を祀り、杉山神社を建立しました。

本宮は都筑区茅ヶ崎で、創建は白鳳3年（674年）、初代<sup>さい</sup>の斎主<sup>しゅ</sup>は忌部義麻呂<sup>かんべいしきないしや</sup>であったと、官幣式内社<sup>のこ</sup>に遺されています。



## 今に伝える栄枯衰退の姿！

時代は下り、あしかがたかうじ足利尊氏が京都に攻め上がる時、杉山神社に戦勝祈願の会場を依頼しました。ところが杉山神社側が鎌倉に恩義を感じ拒絶したことにより、足利尊氏の怒りをかい、室町期には神領はこ



とごとく没収され全ての社の祭神の名、忌部氏の名残は消え失せてしまいました。しかし、人々は忌部の恩恵を忘れる事ができず、今も35の地域において篤く、村の鎮守として祀られております。各地域にはゆかりの地名も多く残されています。麻生の麻生区、美田の恩田、鉄の恩恵、鉄町、五力田(水稻栽培)、生田、菅生等、探れば今も面影を地名で探ることができます。

小説「二千七百夏と冬」を地でいく、縄文文化と弥生文化の共存・重複時代であった時期が実感として身近に感じられます。氏子として生活を送る不思議さを境内の神域にいて感じる事ができます。

現在の祭神は、明治期に神仏分離令が發布された時に各神社の氏子代表が其々に相談して祭神のいない神社では困るという事で、植林の神様としていたけるのみこと「五十猛命」や、やまとたけるのみこと東国平定の英雄「日本武尊」で良かろうと、祭神が定められたようです。

神社の歴史を知る者はなく、今はただ、隣の神社と名前は同じだが、祀られている祭神の名が違う不思議な神様だとささや囁かれています。

# 3

## 曹洞宗 川島山随流院

### エリアマップ⑦

随流院は帷子川西岸に清楚な雰囲気の中佇んでおります。夕には決まって鐘の音があたりに沁み渡り、一日の無事を知らせてくれます。ご本尊は聖観世音菩薩です。

この寺は1441年に臨済宗建長寺派の和尚が開いてから二十代続きましたが、戦火のため、廃寺となりました。時は下り、1547年小机の雲松院の和尚によって曹洞宗のお寺に改宗されました。

寺内で手習いを行っていた故に、明治期の学校制の時、川嶋学舎となりました。川島小学校発祥地であります。



# 4

## 川島たたずに佇む尼寺！松月庵しょうげつあん

エリアマップ⑧

ほどがや語りべ集

元禄七年（1694年）萬機という尼僧が丘の上に住み始めました。阿あ弥みだ陀様を本尊として信心を重ねました。以後、随流院の別院として明治元年（1868年）まで10人の尼僧により守られました。

昭和9年（1934年）に今の阿弥陀堂が建てられ、ご本尊を入仏復活して再建されました。



近代水道と里山のあるエリア

語りべ：白井 強さん

# 5

## 古くから伝わる郷土芸能～川島囃子ばやし～

江戸時代後期から200年以上受け継がれる、保土ヶ谷区川島地域に伝わる川島囃子は、豊作を祈念して始まった郷土の伝統芸能です。

5人の祭り囃子（締太鼓しめだいこ(2)、大太鼓おおだいこ(1)、鉦かね(1)、笛ふえ(1)）に合わせ、おかめ・ひょっとこ笑い面の踊りと狐の舞が共演します。獅子舞いせかくらは一人立ちの伊勢神楽系のものです。



### お正月のお囃子と獅子舞

1月2日、3日に近所のお宅を訪問し、獅子舞を披露。その年の開運をお祝いします。



### 夏祭りでのお囃子と獅子舞

6月中旬は天王町橘樹神社、8月下旬は杉山神社にて披露します。



# 5

## 古くから伝わる郷土芸能～川島囃子ばやし～

太鼓かねや鉦、笛に併せてコミカルな動き、楽しい笑い、古代からの演技をアレンジせず忠実に再現しています。



川島囃子保存会の皆さん

川島囃子は、江戸時代後期に和田寅と弟子の和田藤が、江戸の神田囃子を近くの村々に伝えたのが始まりとされています。

川島囃子保存会は、横浜市無形民俗文化財保護団体として認定されています。先人先輩から受け継がれた日本人の心を表現していく、伝統を後世に伝え後継者を育成する、囃子を通じて社会奉仕に努める、そして文化交流を積極的に推進する、という使命をもってこれからも活動してまいります。



三村 守会長

語りべ：渡邊 廣子さん